



日野重明さんから考えよう

◎記事から読み取ろう

○日野重明さんは、どのような業績をあげていますか。



「この部屋で、健康講座を受けている子ども達の顔の笑顔が、何よりも嬉しく、日野重明さんには、何よりも大切な光景だ。」(佐賀新聞 2017.7.19日 佐賀市の赤松小)

日野原氏評伝

「高齢者の星」挑戦続け

診療、講演 最期まで多忙

歴史上の大事件に何度も遭遇して、その都度危機を乗り越え、戦い続け、大生だった。18日死去した日野重明さんは、100歳を迎えても現役内科医として、東京の聖路加国際病院で診療に当たり、患者の立場から平和運動にも関わるなど、国内外に大きな影響を与えた。

最期まで悠々自適に暮らすには程遠い、多忙な日々を送った。1911年、牧野の息子に生まれ、敬愛タリスチヤンに、京都帝大・現京都大の医学生の時、結核で1年休学した。病氣による挫折は「患者の高橋が分

佐賀医大開学から縁

赤松小で「いのちの授業」

100歳を超える現役医師として知られた日野重明さんは、佐賀医科大学現佐賀大学医学部に開学時から関わるなど佐賀との縁が深かった。新老人の会の佐賀支部が発足した2011年以降は毎年、県内を訪れていた。講演に呼ばれてきた関係者からは、死を懼む声もあがった。日野原さんは佐賀医大の開学翌年の1977年に参事になり、日本初の総合診療科導入など独自の取り組みを提議。佐賀大と統合後の2005

◎広げよう・深めよう

○日野さんの生き方や活動の中で、尊敬できることはどんなことですか。

「野球で言えば、私の人生は九回から」現役のまま日本最長寿を「18日死去した日野重明さんの語録は次の通り」。「75歳をすぎたから第3の人生が始まる。今までしたことのないことをやってみよう」(2000年9月、「新老人の会」発足式のあいさつ)。「もう少し長生きしたら、いつかと思っていたけれど、今回とは思わなかった」(05年10月、文化勲章受章で)。「いのちとは、ひとりひとりが持つ大切な時間。世界や人のために何ができるか、宿題にするから考えてね」(06年5月、大阪教育大付属池田小学校で開

者のお手本にもなった。波瀾に満ちた生涯でも知られる。45年3月の東京大空襲では聖路加国際病院で被災者の治療に当たり、95年の地下鉄サリン事件では、これをきっかけに「憲法を愛せよ」という旗を掲げ、野戦病院的な機能を果たしていたと語った。70年の赤軍派による号ハシヤック事件では、偶然飛行機に乗り合わせて人質になり、死を覚悟したという。「あの事件で人生観が変わった。与えられた命を人のためにさげようと思った」と振り返った。14年春、心臓弁膜症を患っているのが分かったが、車椅子に乗って旺盛な講演者のお手本にもなった。近年は憲法改正の動きに危機感を表明。その頃取材した際、「憲法を愛せよ」という旗を掲げ、野戦病院的な機能を果たしていたと語った。「上手にファイナルに持つていくのが医者のアト」という信念の通り、105年の人生に幕を下ろし旅立った。(共同通信記者・鈴木賢)

(佐賀新聞 2017.7.19付)

◎自分の考えをまとめよう

\*友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○日野さんのいろいろな言葉のうち、印象に残る言葉をあげよう。